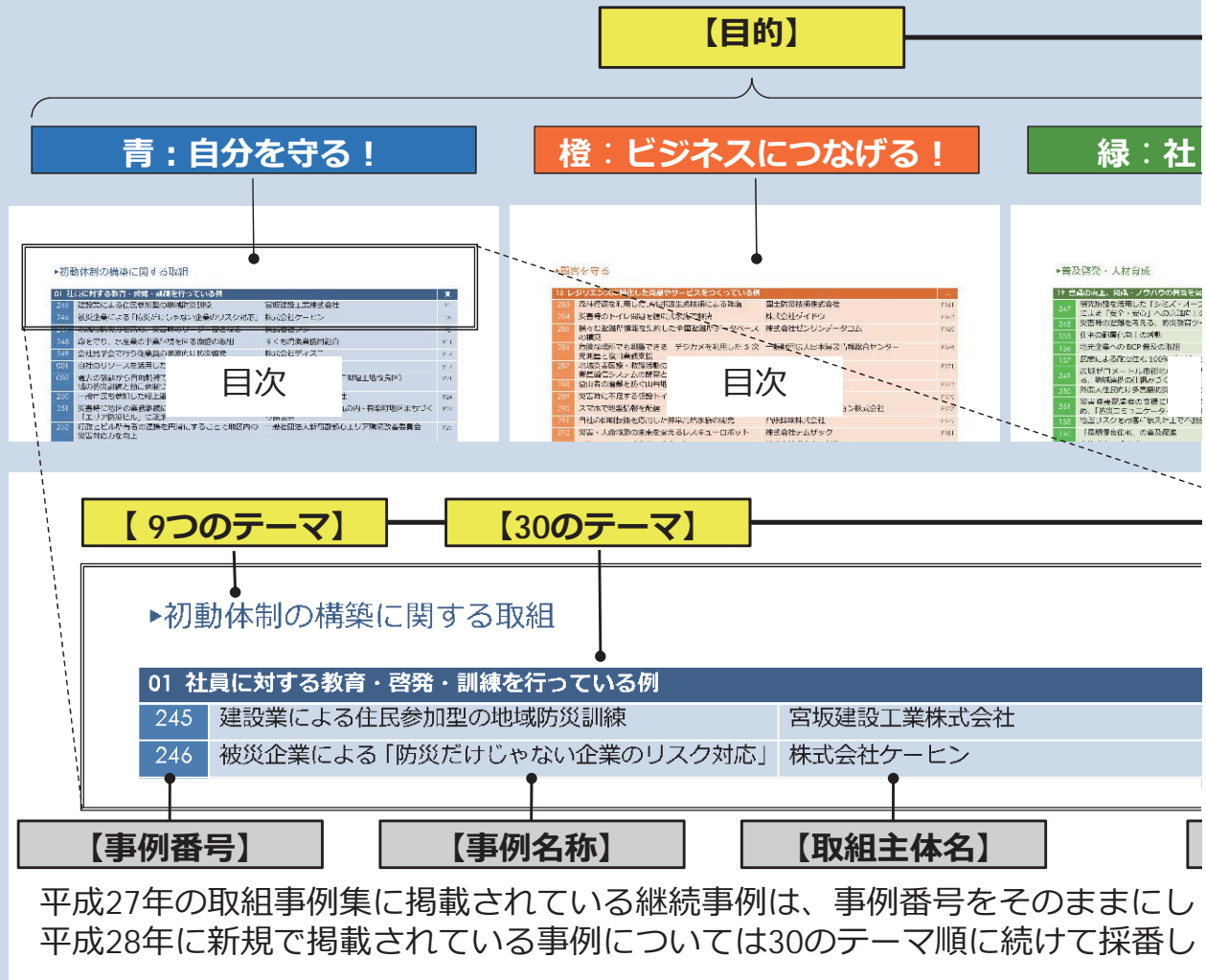


事例集の使い方

この事例集は、国土強靱化を進めていくための参考としていた
 靱化に関する取組を始めた主な目的に応じて、目次をつくりまし
 掲載の事例は、主に公募等により収集しています。今後も様々
 してお伝えしていく予定です。

■ 目次の見方について

目次は、主な【目的】、【9つのテーマ】、【30のテーマ】別
 規事例を継続事例より前に並べており、事例番号、事例名称、



■ 事業者の種類と業種について

【事業者の種類】

事業者の種類は、事業者が災害にどのように関わるかの観点で、下記4つに分

1. インフラ関連事業者 : 電気、ガス等ライフライン、建設業等
2. サプライ関連事業者 : 運輸、衣・食・住等
3. その他防災関連事業者 : 防災関連技術、BCP策定支援、防災教育、不動産
4. その他事業者 : 1. 2. 3以外の事業者

【業種】

業種は、総務省 日本標準産業分類の大分類（平成26年4月1日施行）に基づいて、

だけるようまとめました。適切な事例を探し易くなるよう、国土強
た。
な分野・地域の事例の収集と公募を継続し、参考となる事例を掲載

にひとまとめにしています。また、各テーマの中では、本年度新
取組主体名、頁を掲載しています。

会貢献をする！

目次

2	目次
3	1. 防災対策の推進
4	2. 防災対策の推進
5	3. 防災対策の推進
6	4. 防災対策の推進
7	5. 防災対策の推進
8	6. 防災対策の推進
9	7. 防災対策の推進
10	8. 防災対策の推進
11	9. 防災対策の推進
12	10. 防災対策の推進
13	11. 防災対策の推進
14	12. 防災対策の推進
15	13. 防災対策の推進
16	14. 防災対策の推進
17	15. 防災対策の推進
18	16. 防災対策の推進
19	17. 防災対策の推進
20	18. 防災対策の推進
21	19. 防災対策の推進
22	20. 防災対策の推進
23	21. 防災対策の推進
24	22. 防災対策の推進
25	23. 防災対策の推進
26	24. 防災対策の推進
27	25. 防災対策の推進
28	26. 防災対策の推進
29	27. 防災対策の推進
30	28. 防災対策の推進
31	29. 防災対策の推進
32	30. 防災対策の推進

	頁
	P1
	P5

【頁】

ています。また、
ています。

類しています。

業（地域開発等）

整理しています。

【目的】	【9つのテーマ】	【30のテーマ】
自分を守る！	初動体制の構築	01 社員に対する教育・啓発・訓練を行っている例
		02 役割やルールを決めている例
		03 連携組織をつくっている例
		04 通信手段の確保や情報の共有を行っている例
	重要資産の防護	05 重要施設を防護している例
		06 予備施設・バックアップ施設を確保している例
		07 安全な地域への移転、分散を行っている例
	サプライチェーンの維持	08 物流施設の設置、機能強化を行っている例
		09 サプライチェーンの早期復旧に向けた体制を作っている例
	エネルギー供給の維持	10 自立・分散型システムを導入している例
		11 再生可能エネルギー等を活用している例
		12 非常用電源・燃料等を確保している例
13 レジリエンスに特化した商品やサービスをつくっている例		
ビジネスにつなげる！	顧客を守る	14 顧客の施設等の耐災害性を強化している例
		15 商品やサービスに防災機能を付加している例
		16 顧客の資金調達を支援している例
		17 顧客へ必需品や必要なサービスを提供している例
	顧客の生活を支える	18 顧客へエネルギーを安定して供給している例
		19 意識の向上、知識・ノウハウの普及を図っている例
社会貢献をする！	普及啓発・人材育成	20 レジリエンス教育を行っている例
		21 レジリエンス人材を育成している例
		22 被災者等の輸送を支援している例
	被災者等の支援	23 円滑な医療体制を構築している例
		24 被災者に食料、飲料、燃料、サービス等を提供している例
		25 帰宅困難者への支援を行っている例
		26 火災・延焼を防いでいる例
	地域全体への貢献	27 浸水・山地崩壊を防いでいる例
		28 地域の防災の拠点となっている例
		29 地域に必要なエネルギーを確保している例
30 復旧・復興を支援している例		

■ 各取組事例の見方

- 【詳細事例】：それぞれのテーマにおける代表的な取組を選び、
 【概要事例】：それぞれのテーマにおいて、特色や工夫の見られ

【目的】
「目次の見方」に掲載の3つの分類です。

【9つのテーマ】
各事例に共通する課題に応じて設定した大分類です。

【30のテーマ】
各事例に共通する課題に応じて設定した中分類です。

【事例番号】
当該事例の整理番号です。

【事業者の情報】
取組主体名、マイナンバー、事業者の種類、業種、実施地域を記載しています。

(1) 取組の概要
いつ、どこで、誰が、なにを、何のために、どうやって行ったのかについて記載しています。

(2) 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）
どのような事態を想定し、どう対処したのか。工夫した点や苦労したことなど、取組が完了するまでの過程について記載しています。

ビジネスにつなげる！ ▶顧客の生活を支える 17 顧客へ必需品や必要なサービスを提供している例

331 身近な公園を楽しむための情報発信で防災情報を浸透させる

取組主体	マイナンバー	事業者の種類（業種）	実施地域
株式会社コトラボ	5010001088987	その他防災関連事業者（情報通信業）	東京都

1 取組の概要

公園の防災機能について理解を深める

- 株式会社コトラボは、ベンチや遊具等を製造する屋外公共家具メーカー株式会社コトブキの子会社として、平成 26 年に設立された。同社では、全国の公園情報の検索や写真投稿機能を持つスマートフォンアプリ「PARKFUL（パークフル）」を開発し、無料公開している。
- 同アプリでは、防災設備を含めた公園情報が提供され、災害時に必要な情報が得られるとともに、利用者による画像や文章の発信により、公園に備わる防災設備に対する理解が深められる仕組みとなっている。



▲投稿されているカマドベンチ

2 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）

グループ社員で情報を集める

- 同グループでは、公園に置かれているベンチや遊具を扱っているが、公園の新しいあり方を提示することで公園をフィールドとした事業の模索を行っている。その一環として、公園をより魅力ある場として情報発信するために同アプリは開発され、情報収集を行っている。
- 公園の情報は集約化されていないため、全国の公園情報の取得は困難を極める。このため、同社を含めたコトブキグループでは、非公開情報については、社員が現地調査することとしており、防災設備を始めとした約 5,300 件の公園情報を、コトブキグループ社員うち 90 名が現地調査（平成 26 年 9 月～平成 27 年 8 月）によって収集した。平成 28 年 2 月より、公園管理者

【概要事例】

社会貢献をする！ ▶普及啓発・人材育成 21 レジリエンス人材を育成している例

358 「中越市民防災安全士」育成と防災活動

取組主体	マイナンバー	事業者の種類（業種）	実施地域
公益社団法人中越防災安全推進機構 中越市民防災安全士会	5110005012504	その他防災関連事業者（複合サービス事業）	新潟県

- 公益社団法人中越防災安全推進機構が運営する中越市民防災安全大学は、中越地震の経験・知見を共有・伝承し、地域防災リーダーを育成するために平成 18 年に開校された。地域コミュニティの防災安全活動の中核を担う人材を育て、災害時、市民と行政、企業等をつなぎ活躍できる「中越市民防災安全士」を育成している。
- 中越市民防災安全士会は、中越市民防災安全大学の卒業生有志により設立した団体で、地域防災力向上の講演や訓練に講師派遣や指導等の様々な防災活動を行っている。平成 26 年 9 月現在、会員数は 161 人で、消防署や自主防災会と連携し、防災訓練等に講師を派遣し、講演や救急訓練（AED 取扱い、心配蘇生法、簡易担架作成）等を行っている。
- 安全大学という学びの場と中越市民防災安全士会というネットワーク形成・防災知識の維持向上・活躍の場をセットにすることで、より大きな相乗効果を生んでいる。



▲中越市民防災安全士会のメンバーによる活動の様子

特色ある取組について概要や工夫したことを記載しています。

の設備情報等が
。
かまどベンチ
ードし、多くの
グリックフォー
スマートフォン
いる。
客の生活を支える

詳しく掲載しました。
る取組について、掲載しました。

【事例名称】
当該事例の題名です。

【詳細事例】

3 取組の平時における利活用の状況

- 公園情報については、遊具やトイレ情報等が充実しており、公園利用者に活用されている。
- また、利用者はアプリで新たな公園を見つけ、アプリ以外にもウェブサイトや SNS 等の媒体も活用しながら、公園を楽しむための情報収集および情報発信を行うことが可能となっている。



▲利用者が投稿した公園情報

(3) 取組の平時における利活用の状況

災害時以外の活用方法、取組が継続するための工夫を記載しています。

4 取組の国土強靱化の推進への効果

- 公園は、災害時には避難場所や防災拠点としての役割を持っている。日頃から公園に親しみ、公園の位置や災害時の機能を住民が理解しておくことが、有事の際の迅速な行動につながると考えられる。同社では、「地域の交流の場である公園が災害を乗り切るコミュニティの強さを培う」と考え、まずは公園を人々にとって身近な場とすることが本サービスの役割といえる。



▲公園の防災設備情報を表示したスマホ画面

▲収集された公園情報（広域）

(4) 取組の国土強靱化の推進への効果

取組が、国土強靱化に具体的にどのようにつながるのかを記載しています。

5 防災・減災以外の効果

- 公園設備の専門知識を持つコトブキグループ社員による調査により、遊具等の老朽化や破損状況等も確認でき、状況を公園管理者に通知することで事故防止への貢献にもつなげている。また、同調査は同社社員の教育活動にも活用されている。

(5) 防災・減災以外の効果

企業イメージの向上等、防災・減災以外の効果を記載しています。

6 現状の課題・今後の展開など

- 同社では、今後も調査を継続し、公園の登録数を増やすとともに、詳細情報の充実を図っていく予定である。また、アプリの利用者数の拡大に取り組んでいく意向である。
- 今後は全国自治体と連携し、より信頼性の高い情報発信に取り組むことを検討している。

(6) 現状の課題、今後の展開など

取組を進める上での障壁や発展の方向性等、具体的な予定を記載しています。

7 周囲の声

- 集客・情報発信に課題を感じている公園管理者の方にとって効果的な媒体である（公園管理者）

(7) 周囲の声

取組関係者等の第三者からの評価・評判を記載しています。